

## 「第5回只見ユネスコエコパーク推進協議会」開催

ユネスコエコパークの理念である人と自然の共生を目的としたまちづくりを進める為、「第5回只見ユネスコエコパーク推進協議会」の会議が2月28日、明和振興センターで開かれ、町内外から約20名の関係者が出席しました。

会議の冒頭、会長・副会長の代表者変更が行われ、会長に菅家三雄町長、副会長に只見地区区長連絡会副会長の五十嵐修さんが就任されました。菅家町長は「これまでの様々な取組みにより総務省の『ふるさとづくり大賞』に選ばれた。前町長からの意思を引継



▲活動報告などが行われた推進協議会

ぎ取り組みますので、皆様のご協力をお願いしたい」と挨拶しました。

報告事項では、平成28年度の各種活動報告と昨年6月24日から施行された「只見町野生動植物保護条例」についての説明がありました。この条例制定により不当な盗掘等への対応が可能となったことに対して、会津森林管理署の川原南会津支署長は「国としてはこのような条例ができたことを広く周知できる。また、その波及効果は大きい」と述べられました。

また、次年度に予定している「浅草岳沼ノ平学術調査」については、沼ノ平の湖沼群や成熟したブナ林などの豊かな自然環境と、地滑り地帯という不安定な環境という両面について総合的な学術調査を行い、今後の沼ノ平の保護・保全と持続可能な利用について検討していくと説明がありました。



▲次年度から調査予定の浅草岳沼ノ平地内

## タレント「清水国明」さんが講演

2週連続開催の「只見町地方創生講演会」第1弾が3月19日、季の郷湯ら里で行われ、タレントの清水国明さんが「生きるチカラ、自然のチカラ」と題し、参加者約90名の前で講演されました。

講演会では、清水さんが校長を務める山梨県のNPO法人河口湖自然楽校における、大自然の中でのアウトドアを通して「自然から学び、自ら気づく」独自のプログラムにより、多くの企業の社員研修を受入れていることや、都心で手掛ける砂場づくり事業などをお話されました。また、ダムの砂を再利用したサンドバレーコートについて「只見町の着眼点が素晴らしい」と述べられました。



▲自然の魅力や活用方法などについてユーモアを交えながら講演した清水さん

## 「株いろどり」横石知二社長が講演

3月25日、季の郷湯ら里で「只見町地方創生講演会」第2弾が開かれ、約90名が参加しました。

講演会は、「一枚の葉っぱから生まれた幸せく居場所と出番づくり」をテーマに、「株いろどり代表取締役社長の横石知二さん（徳島県）が、「つまもの」を、葉っぱビジネスとして成功させるまでの道のりなどをお話されました。

講演会の中では、「町民の舞台づくり」の必要性を話され、情報と仕組みを使って地域の仲間とともに稼ぐことが、地域づくり、まちづくりに繋がると述べられました。



▲人・地域・商品が輝く舞台づくりが大事と話す横石社長

只見町の小学校の未来を考える  
「只見町立小学校の在り方検討懇談会」を設置

少子化時代の小学校を考える「只見町立小学校の在り方検討懇談会」が3月1日、朝日振興センターで開かれ、各小中学校長やPTA、保育所保護者会、区長連絡会などから14名の委員が委嘱されました。只見町人口ビジョンなどによると、小学校児童数は平成27年から10年後には、193名から88名に減少すると予想され、平成32年には三小学校が全て複式学級になる見込みです。そこで教育委員会は、地域全体でこの問題を考えるために懇談会を設置しました。

懇談会では、これからの小学校の在り方について意見交換がされ、その成果は今後の小学校運営に活かされていきます。



▲委員に朝日地区区長連絡会長の菅家達朗さん、副委員長に明和地区区長連絡協議会長の梁取哲朗さんが就任した懇談会

只見町のアウトドアを考える  
アウトドア基本構想ワークショップ

2月28日、季の郷湯ら里において「自然首都・只見アウトドア基本構想ワークショップ」が行われ、新潟県三条市のオートキャンプパイオニアメーカー(株)スノーピークの担当者や町内アウトドア関係者など13名が参加しました。このワークショップは、国道289号八十里越全線通を見据え、アウトドアを通して観光客などにユネスコエコパークを体感してもらう方法を検討するため、観光商工課が主催しました。

ワークショップでは、青少年旅行村・只見湖・田子倉湖の活用について参加者と意見交換が行われ、各団体から期待する意見が聞かれました。



▲会社概要やオートキャンプについて説明するスノーピークの上山さん

東武鉄道の新型特急  
「リバティ会津」初披露

4月21日から運行が始まる東京・浅草駅と南会津町・会津田島駅を乗り換えなしで結ぶ東武鉄道の新型特急「リバティ会津」の内覧会が3月5日に行われ、町関係者などが参加しました。内覧会では、ベージュ色をベースに緑色のラインなどを配した近未来的な外観、天井に川の流れをイメージした曲線のデザインや東京の伝統色「江戸紫」を使用した座席などの内装が披露されました。

また同日、南会津町の御蔵入交流館で乗入れ50日前イベント「みんなのリバティ in 南会津」が開催され、桜枝歌歌舞伎や鉄道好き芸人「鈴川絢子」ステージなどが行われました。



▲浅草駅と会津田島駅間を1日4往復し、最短3時間9分で結ぶ「リバティ会津」

地域社会で認知症と向き合う  
認知症予防講演会を開催

3月25日、季の郷湯ら里を会場に認知症予防講演会が行われ、139名が来場しました。

講演会は、会津医療センター臨床心理士の加藤善和先生が「地域社会で認知症と向き合うために」をテーマに講話されました。

講演会の中では、地域全体が認知症に対する偏見を捨て、その方々が地域の中で暮らしやすい環境を作ることの重要性や、早期に受診することでの病気(もの忘れ)を治すことや、長く健康を維持できるなどと講話されました。

講演会の最後には、参加者から認知症に対する質疑がされ、認知症への理解を深めました。



▲認知症と向き合う為には、受入れてくれる人や場所を作ることが重要と話す加藤先生